

まえがき (Preface)

極域の中間圏・熱圏・電離圏 (Mesosphere, Thermosphere and Ionosphere; MTI) 領域は、オーロラ過程によって上方から直接注入されるエネルギーと下層大気から輸送された大気潮汐波や重力波エネルギーなどに起因する、さまざまな時間・空間スケールの波動・擾乱^{じょうらん}・変動などのるつぼとなっている。この中層大気から熱圏・電離圏に至る中性大気、電離大気のダイナミクス、広汎な大気各層の力学的結合を理解するために、情報・システム研究機構国立極地研究所では、南極地域観測第Ⅶ期および第Ⅷ期計画の重点プロジェクト研究観測で、各種レーダーや分光器、イメージャーなど、さまざまな光・電波観測装置を用いて、総合的かつ詳細な観測研究に取り組んでいる。

しかし、極域 MTI 領域の現象は反対半球の極域や、中・低緯度の超高層大気変動・現象とも関連し、相互に影響しているため、緯度にとられないグローバルな議論が必要不可欠である。このため、平成 24 年 8 月 23-24 日に、情報・システム研究機構国立極地研究所・情報通信研究機構・名古屋大学太陽地球環境研究所共催「中間圏・熱圏・電離圏 (MTI)」研究集会を開催し、国内の MTI 領域の研究者が一堂に会して活発な議論を行った。

本号では、この MTI 研究集会において議論したトピックを報告する。

2013 年 8 月

MTI 研究会 特集号編集分科会委員

江尻省・大塚雄一・大山伸一郎・齊藤昭則・
坂野井和代・津川卓也・Huixin Liu・細川敬祐